

すべてはふたつの麻袋から始まった。



鬼が来たか！

二〇〇〇年カンヌ国際映画祭グランプリ

DEVILS
ON THE
DOORSTEP



主演: 姜文
香川照之

監督・製作・脚本: チャン・ウェン(姜文)

撮影監督: クー・チャンウエイ(顧長衛)

音楽: ツイ・チエン(崔健)他

出演: チャン・ウェン(姜文)、香川照之、

チャン・ホンポー(姜鴻波)、ユエン・ティン(袁丁)、

澤田謙也、宮路佳良、長野克弘

提供: GAGA アジアグループ

徳間書店 / PUG POINT JAPAN

宣伝協力: ジェーシービー(李珍)

配給: 東光徳間

FORTISSIMO 制作

原題: 鬼子來了

鬼が来た! カンヌ国際映画祭で審査委員長 リュック・ベッソンを驚愕させ感動させた グランプリ作品、ついに公開!!

**世界が笑い、絶句し、涙した、
これまで誰も見たことのない衝撃の問題作!**

★本作『鬼が来た!』の舞台は第2次世界大戦末期、日本軍占領下の中国華北地方。万里の長城近くの寒村で、麻袋に入れて届けられた日本兵と村人との交流がユーモラスに描かれる。言語の違いから生まれるスラプスティックな顛末、欲に支配される人々のあざとさや愚かさは、観るものの笑いを誘う。そして、ラスト30分の衝撃、唐突に発露される狂気には絶句させられるに違いない。テンポがよく充分にエンターテインメントであり、しかも社会性に富む、これまで試みられたことのないドラマ手法は、「その大胆さにおいては傑出している。すべてのシーケンスは驚きの連続であり、クラシック音楽のように繊細な編集と対比を際立たせていく演出は芸術の域に達し、高潔な舞台効果に満ちている(フランス・ソワール紙/ジャン=フィリップ・ゲラン)」とカンヌでも絶賛された。また、ここで描かれているのは戦争と人間という、より広く深い普遍であることを見逃してはならない。これは人間性の闇を突きつけた映画なのだ。



チアン・ウェンこそが 21世紀の黒澤明であり フランシス・F・コッポラだ!

★監督デビュー作『太陽の少年』で、文芸時代の北京の青春物語を瑞々しく描いて喝采を浴びた、中国映画界が誇る名優、チアン・ウェンは1963年生まれの38歳。監督2作目にして、2000年カンヌ国際映画祭グランプリに輝いた『鬼が来た!』は、その衝撃度、作品の完成度の高さから大きな話題と期待を呼んできた。★あたかも当時の記録映画のような質感を持つ白黒フィルムを使いながら、手持ちカメラやアップの多用によって実現した躍動感溢れる力強い映像。突然彼らの生活に闖入して混乱を招く日本兵をめぐる、喧々轟々と揺れる村人たち一人一人を写真していく演出力は凄みすら感じる。主演のひとり、麻袋の日本兵を演じる香川照之は、昨年『独立少年合唱団』で数々の映画賞を受賞、NHK大河ドラマ『利家とまつ』でも木下藤吉郎役として、今一番の注目株。また、映像を盛り立て深める音楽には、中国のロック・シーンのカリスマ的存在、ツイ・チエンが参加した。これらの要素を丁寧にすくいとり、戦争という極限状況の中での人間の本质を、驚くべき冷静さとユーモアをもってフィルムに収めたチアン・ウェンこそ、21世紀の黒澤明であり、フランシス・F・コッポラと呼ぶにふさわしい、真の逸材なのだ。

製作
華億影視娛樂有限公司
中國電影合作制片公司

監督・製作・脚本
チアン・ウェン(姜文)

原作
ユウ・フォンウェイ(尤風偉)
『生存』

撮影監督
クー・チャンウェイ(顧長衛)

音楽
ツイ・チエン(崔健)
リウ・シン(劉星)
リー・ハイイン(李海鷹)

出演
チアン・ウェン(姜文)
香川照之
チアン・ホンポー(姜鴻波)
ユエン・ティン(袁丁)
澤田謙也
宮路佳具
長野克弘
デビッド・ウー(呉大維)

原題
鬼子來了
DEVILS ON THE DOORSTEP

2000年中国映画
パートカラー/ドルビーSRD
1:1.85 ビスタ/140分

提供
GAGA
アジアグループ
徳間書店
PUG POINT
JAPAN

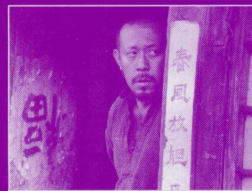
宣伝協力
ジェシービー(李珍)

配給
東光徳間



**「お兄さん、お姉さん、新年おめでとう!」
香川照之のこの絶叫が
見るものの魂を震わせる。**

★1945年旧正月直前の中国の寒村。深夜、青年マー(チアン・ウェン)のもとに「私」としか名乗らない男がやって来て、麻袋を2つ、置いていく。麻袋の1つには日本兵が、もう1つには通訳の中国人が入られていた。はたして、マーをはじめとする村人たちは、この2人をどうすべきかわからない。「私」の指示通りに村に置いて、それが日本軍に知れたら、村人全員が殺されてしまうかもしれないのだ。★日本兵の花屋小三郎(香川照之)は囚われの身になったことを軍人として恥じ、一刻も早く殺せとわめき立てる。村人たちは、「私」に戻るまで2人を隠しておくことに決め、貧しい暮らしの中から食糧を捻出する。だが、約束の1週間が過ぎても「私」は現れず、時間はどんどん流れていく。★一方、花屋は次第に当初の自暴自棄を引っ込め、村人たちの心ある世話に感謝し、生き残る意欲を取り戻していく。彼は村人に提案をする。自分を助け世話をしてくれたお礼に穀物2台分を進呈するよう上官にかけあう、と。★それが衝撃のクライマックスへの幕開けとは、そのとき誰も予想していなかった……。



7月6日(土)よりアンコールロードショー

☆前売券¥1,500円(当日:一般1,800円・大高1,500円のところ)はチケットぴあにて「シネフェスタ7月中有効券」をお買い求め下さい

☆シネフェスタ独自の週3回のサービスデー(一部実施しない時期がございます)

①毎週月曜:男性1,200円②毎週水曜:女性1,000円③毎週金曜:女性1,200円

地下鉄動物園前6出口・フェスティバルゲート7F
動物園前 **シネフェスタ4**
☎06(6647)7188 <http://www.cinefesta.com>

7/6(土)~7/12(金)	朝10:45	4:45
7/13(土)~7/26(金)	朝10:45	4:10

交通案内
天王寺動物園
通天閣
シネフェスタ
フェスティバルゲート7F
地下鉄動物園前6出口・フェスティバルゲート7F
●地下鉄線定時・終電後「動物園前駅」5番出口
●JR線定時・終電後「動物園前駅」5番出口